サンデー経済

特産特食

絶妙な味のマッチ

トルコ名物、文化村が縁

サバサンド ―柏崎市―

日本海を望む柏崎市の高台にある北陸道米山サービスエリア（SA）。新潟方面へ向かう下り線の売店へ足を踏み入れると、サバを揚げる香ばしい匂いが漂う。熱々ジューシーな空揚げを、バターをたっぷり塗ったパンに挟む「サバサンド」。十数年前の登場以来、口コミで評判が広がり、最近は同SAを「サバサンドのサービスエリア」と呼ぶドライバーもいるという。

サバは脂の量が年中安定し、パンによく合うというノルウェー産を使用するこだわり。サンド作りの最終工程は、買った人に委ねる仕掛けだ。タマネギを自由にトッピングし、レモン汁や塩こしょうを振って好みの味に調整できると人気を呼ぶ。

パンごとかぶりつくと、口の中に、サバのうまみがじゅわっと広がる。レモンの酸味、タマネギのみずみずしさが絶妙にマッチ。後味は意外とさっぱりしている。

サバサンドを扱う軽食コーナーは、ニッカイ米山が運営する。支配人の柴野慈さん(60)は「バスガイドさんに紹介された観光客や仕事帰りの常連客など、いろいろな方に選んでもらっています」と笑顔で話す。発売当初は1日十数個しか売れなかったが、今は平均百数十個が売れる。

「福島県へ向かう途中という富山県のツアー客は「興味本位で注文したけど、思った以上においしかった」「面白いメニュー」と高く評価。ただ、SAにサバサンドがある理由については「新潟に昔からあった食べ方？」と誤解する人もいた。

なぜ柏崎にこんなメニューがあるのか。実は、遠い異国をテーマにした「柏崎トルコ文化村」が1996年、SA近くに開園したのがきっかけだ。

タマネギなどの詰め方を紹介するスタッフ。客が自由にトッピングすることができる＝柏崎市の北陸道下り線の米山SA

完成したサバサンド。左が「ビッグ」、右が「レギュラー」。ジューシーな香りが食欲をそそる＝柏崎市の米山SA（下り線）

ニッカイ米山の当時

SA下り線で販売

〈メモ〉米山SA下り線のサバサンドは、ビッグ（380円）、レギュラー（250円）の2サイズがある。トッピングの追加料金は不要。年中無休で24時間販売している。上り線（富山方面）のSAでは売られていない。

ニッカイ米山の当時の社長がトルコ・イスタンブールを訪れた際に、ファストフード感覚で愛されるサバサンドを知った。

海辺の店や街なかの屋台で売られるというサバサンド。柴野さんは「まさに庶民の味で、観光客にも人気がある。文化村のある柏崎に同じものがあったら面白いんじゃないかという発想です」と説明する。当時は、園外でもトルコとの関わりを感じさせたいとの機運が市内にあったという。

しかし、文化村の入園者数は伸び悩み2004年に閉館、跡地はウエディング施設になった。柏崎では今も、トルコの子どもたちが描いた絵の展示会など交流が続いているものの、市外の人がトルコとのつながりを感じられる機会は減ってしまった。

柴野さんは「柏崎でトルコの食べ物は意外かもしれないが、交流を伝えるメニューだ。今後も多くの人に親しんでほしい」と語った。

マネードクター

為替ヘッジ使い分けは

Q 投資信託の為替ヘッジありと為替ヘッジなしは、どう使い分ければいいのでしょうか。

A 外国の債券や株式に投資する投資信託には、為替変動リスクを回避する手段を講じている「為替ヘッジあり」タイプと、そうでない「為替ヘッジなし」タイプの両方が用意されているものが少なくありません。

通貨の分散を図る目的であれば、ヘッジなしタイプを選ぶべきですが、円高時には基準価額は低迷します（逆に円安になれば上昇します）。

一方、ヘッジありタイプは為替の影響を受けないため、円高による差損を被ることはありませんが、円安時に差益を得ることもできません。また、投資対象国の金利が日本より高いと、ヘッジのためのコストがかかり、その分運用成績は低下してしまいます。

ただ、金融危機以降の円高局面では、世界的に金利が低下してヘッジコストが軽減されたこともあり、現時点ではヘッジありタイプの投信の方が好成績を収めています。

ヘッジありタイプとヘッジなしタイプを自由に乗り換えできる投信もありますが、為替動向や各国の金利状況を予測し、タイミング良く乗り換えていくのは難しいでしょう。その場合、例えば両方に資金を半分ずつ投資するのも一つの方法といえます。

（FPアソシエイツ アンド コンサルティング 福田啓太）

くらしウエーブ

寒さ対策製品

血流促進し体調改善

冬本番。寒さから末梢（まっしょう）血管が収縮し、冷え性や腰痛のほか血圧も上昇し、お年寄りなどにはつらい季節。厚着や暖房などの寒さ対策に加え、体を直接温めるのも効果的だ。全身の隅々に温まった血液を行き渡らせることで体にたまった老廃物が運び出され体調も改善に向かう。

三洋電機の「エネループ カイロ」は、同社の充電式ニッケル水素電池「エネループ」（単3形2個）を使った電気カイロで繰り返し使用できる。強・弱の2段階調節でマイコン制御により温度の上がり過ぎを防止。パソコンのUSB接続から充電できて、オフシーズンにはエネループの充電器にもなる。色はシルバー、ピンク、ゴールドの3種類。オープン価格で実勢は4300円前後。

全身を温浴効果で温めるのは、花王の薬用入浴剤「マイクロバブ」。粉末タイプでは珍しい発泡性で、目に見えない炭酸の超微細な泡が体を包み込み血行を促進。時間をかけてゆっくり湯船につかる20～30歳代の女性に人気。ベルガモットジンジャーとゼラニウムグリーンの2種類の香りがあり、4包入りで実勢は500円前後。

ピジョンの「じ～んわりぽかぽかジェル」は、塗るタイプの温感ジェル。保湿剤のアルコール成分と肌の水分が化学反応することで熱が生まれる仕組みで、手足などの冷える部分に塗ると心地よいぬくもりが得られる。保湿成分のヒアルロン酸も配合され肌の乾燥も防ぐ。無香料とゆずの香りの2種類で希望小売価格は578円。

（上）三洋電機の「エネループ カイロ」（下）花王の「マイクロバブ」

ピジョンの「じ～んわりぽかぽかジェル」

けいざいくしてますか？

石川寿彦